

日蓮大聖人御書全集

ごくらくじりようかん

ごくじよう

極楽寺良観への御状

新版
860
〜
861

ごくらくじりようかん

ごくじよう

極楽寺良観への御状

ぶんえい

ねん

文永5年（'68）

10月11日

47歳

良観房忍性

がつ

にち

さい

りようかんぼうにんしろう

せいじゆう

だいもうここく

かんちよう

かまくらどの

ほか

西戎・大蒙古国の簡牒のことについて、鎌倉殿その外へ

しよじよう

しん

そうろう

にちれんい

ぶんおうがんねん

ころかんが

もう

書状を進ぜしめ候。日蓮去ぬる文応元年の比勘え申せ

りつしyouあんこくろん

きこうまつ

そうい

そうろう

し立正安国論のごとく、毫末ばかりもこれに相違せず候。

このこと、いかん。

ちようろうにんしろう

すみ

ちようろう

こころ

ひるがえ

はや

にちれんぼう

長老忍性、速やかに嘲弄の心を翻し、早く日蓮房に

き

たま

にんげん

きようせん

もの

帰せしめ給え。もししからずんば、「人間を軽賤する者」

びやくえ

ほう

と

とがのが

がた

ほう

よ

にん

「白衣のために法を説く」の失脱れ難きか。「法に依つて人

よ
に依らざれ」とは、如来の金言なり。

りようかんしようにん　じゅうしよ　ほけきよう　と

良觀聖人の住处を法華經に説いて云わく「あるいは

あれんにや　のうえ　かうげん　あ　あ　あれんにや　ぶじ　ほん

阿練若に、納衣にして空閑に在る有り」。阿練若は無事と翻

にちれん　ざんそう　じよう　じゅうしよ　そうい

ず。いかでか、日蓮を讒奏するの条、住处と相違せる。

さんがく　に　きようぞく　しようにん

しかしながら三学に似たる矯賊の聖人なり。

せんしようぞうじようまん　こんじよう　こくぞく　らいせ　ならく　だざい

僭聖増上慢にして、今生は国賊、来世は那落到墮在せん

ひつじよう　せんぴ　く　にちれん　き

こと必定なり。いささかも先非を悔いなば、日蓮に歸すべ

し。

おもむき　かまくらどの　たてまつ　けんちようじとう　ほか　ひろう

この趣、鎌倉殿をはじめ奉り、建長寺等その外へ披露

せしめ候。詮ずるところ、本意を遂げんと欲せば、対決に
しかず。

すなわ さんぞうせんごん ほう しよきようちゆうおう ほっけ む

即ち三蔵浅近の法をもつて諸経中王の法華に向かう

こうが たいかい かざん みようこう しようれつ

は、江河と大海と、華山と妙高との勝劣のごとくならん。

もうここくじようぶく ひほう さだ ごぞんちあ そうろう

蒙古国調伏の秘法、定めて御存知有るべく候か。

にちれん にほんだいいち ほけきよう ぎようじゃ もうここくたいじ たいしよう

日蓮は日本第一の法華經の行者、蒙古国退治の大將た

いつさいしゆじよう なか だいいち

り。「一切衆生の中において、またこれ第一なり」とは、

これなり。

もんごんたたん り あた

文言多端なれども、理を尽くす能わず。しかしながら

しょうりやく

そうろう

きようきようきんげん

省略せしめ候。恐々謹言。

ぶんえいごねんつちのえたつじゆうがつじゆういちにち

文永五年戊辰十月十一日

きんじよう

ごくらくじちようろうりようかんしようにんおんもと

謹上 極楽寺長老良観聖人御所

にちれん

日蓮

かおう

花押